

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

日本/ニューイングランド交流の記録出版企画の提案

代表幹事 藤崎博也

ボストン、マサチューセッツ、そしてニューイングランドは、本会の会員の一人一人にとって忘れ難い思い出と愛着の対象であることは申すまでもありませんが、同時にそれは、現在のアメリカ国家の誕生の地であり、また日本とアメリカの交流の発端を開き、近代日本の発展に影響を与えた歴史上の多くの人々が活躍した地でもあります。

私は平成8年の10月に本会の代表幹事を仰せつかって以来、会員の皆さんの旺盛なボランティア精神と、それに支えられた数々の有意義な活動に、いつも敬服しておりますが、それに加えて、この会の活動の一部分でも、具体的な記録としてまとめ、さらに広い範囲の人々のために役立てる方法はないかと考えて参りました。

幸い当会には「ニューイングランドと日本の歴史研究会」と「歴史を飲もう会」があり、活発に活動しております。そこで「日本とニューイングランドの交流の歴史」に関する出版を企画し、幹事会に提案しましたところ積極的な賛同が得られました。

この企画は先ず会員の手作りで自費出版を行い、その後出版社に出版をお願いするという2段階で行

うものです。最初の自費出版には執筆希望の会員に出来るだけ参加して載せたいと思っています。以下に現在の計画の内容を示しますので、参加希望者は執筆希望項目(自由)とともに藤崎副代表幹事までご連絡下さい。

出版計画

- 1) タイトル: 未定ですが、「日本の歴史を作ったボストン人脈」、或いは「ボストン・ニューイングランドと日本の交流の歴史」など
- 2) 編集: 委員長(藤崎) 幹事(藤崎・篠崎・関他数名)(希望者を募集中です)
- 3) 執筆申込締切: 1998年11月13日(総会当日)
- 4) 第1次原稿締切: 1998年12月31日
- 5) 原稿: なるべくワープロで作成し、ハードコピー1部およびフロッピー1枚を提出(ワープロの機種を明記)。手書きの場合には、読みやすく清書した原稿を提出(手元にコピーを保存)。
- 6) 書式: A4サイズ 縦1ページ、横書、1行全角40字40行
- 7) 第1次原稿出版: 1999年4月発行予定
- 8) 費用: 原稿提出時1編当たり2000円。
(3ページに続く.....)

総会・懇親会のお知らせ

(ボストン日本人会「いこいの場」里帰りグループ歓迎会)

日時: 平成10年11月13日(金)午後6時開場、午後6時半開会
 場所: NEC三田ハウス芝クラブ(JR田町駅、都営地下鉄三田線三田駅下車)
 港区芝5-21-7、電話03-5443-1400
 出席者会費: 当日払い お一人6000円/同伴者5000円
 事前送金 お一人5000円/同伴者5000円
 送金方法: 銀行

申込み先: 日本ボストン会事務局(同封葉書にて10月31日までに投函してお知らせ下さい)
ご欠席の方をお願い申し上げます。 通信費としてご寄付(1000円)をご送金願えれば幸いに存じます。(郵便振替用紙同封)

送金先

ポーツマス条約連載(第4回)

現地ポーツマスでの歓迎準備

ニューイングランドと日本の歴史WG

藤盛 紀明

今回は日露の代表団のために、米国や現地ニューハンプシャー州、そしてポーツマス市がどのような準備をしたかを紹介することにしたい。

先ず交通手段である。当時の新聞の写真によれば、一般には馬車と蒸気船がかなり利用されていたようである。しかし代表団の会議場とホテルの移動用として5台のポープ・トレード・ツアリング・カー(Pope-Toledo Touring Cars)が用意されたと報じられている。

米国の自動車の歴史の本によれば、米国の自動車生産はニューイングランドから始まったと言う。始めは電気自動車と蒸気自動車であった。大変地球に優しい自動車であったのに、その後ガソリンエンジンが発明されて今日に環境破壊につながっている。さてポーツマス条約交渉が行われた1905年頃は既にフォードやオールズモビルが自動車生産を始めていた。にもかかわらず何故ポープ車が採用されたのだろうか？

米国の自動車の歴史の本によれば、この会社はアルバート・ポープ大佐が設立したもので、多くの車種を生産した。とくにポープ・トレードと言う車種は当時米国で最大の巨大なリムジンであったと言う。50馬力で価格は当時の金額で6000ドルであったと言う。さらにウエーパリー(Wavery)軽電気自動車1台も用意されたとあるが、ポープ社はインディアナポリスにある電気自動車製作会社ウエーパリー社を買収したとあるから、これもポープ社からの購入であろう。

前述の歴史の本では巨大リムジン、ポープ・トレードの製作は1908年とあったが、これは間違いではなからうか。1905年の条約交渉のために用意されたのだから、遅くともその年には製作されていたはずである。

ポープ社は佐の死後も継続されたが、結局1914年に閉鎖されたとある。

その他40フィートのカッターが製作され、この蒸気船の運行のために25人の水夫がワーバッシュ、ボストンから選別されて雇い入れられた。

会議場も新たに準備されたものの一つである。軍港にある新しい軍用ストアの2階を改装したもので、200人の作業員で四日間で作業を完了した。中央に大きな部屋を一つ、そして会議室、両側に両国用の部屋を各3部屋、米国側がレセプションに利用する部屋、朝食と昼食用のダイニングルーム、さらに書類保存倉庫としての耐火構造の部屋を2室準備した。この耐火構造の部屋迄用意するのは、過去の他の条約交渉にもあったろうか？一級建築士の筆者には興味ある事実である。

ワインと酒のためにトラック3台分のワイン収納室が設けられた。料理はボストンで調理し、ダイニングルームの電気オープンで温めたとある。

貨車3台分の家具がフィラデルフィアから持ち込まれた。ビルの床にはペルシャ絨毯が一番大きいものは850ドル、あとは500ドル、350ドルの絨毯が敷かれたと言う。テーブルと椅子はマホガニーでモロッコ革で被われていた。家具調度の費用は総額1500ドルであった。

以前にも記述したように、ロシア側はフランス語、日本側は英語であったので、2ヶ国語の通訳が用意された。面白いのはロシア側はニューヨークのワールドーフ・アストリア・ホテルから10人のフランス人ウエーターを呼んだので、そのフランス語通訳が用意されたことである。

傑作な事件はウエントワースのホテルで、代表団到着の朝、星条旗、日本国旗を揚げ、いざロシア国旗を揚げようとしたら、掲揚用のロープがなかったことである。あわててポーツマスから取り寄せる迄、日本国旗は待機させられたことである。

いずれにしても、現地は大変な費用をかけて準備をしてくれたのであった。今改めて感謝したい。

ボストン日本人会

日本ボストン会会員の皆様へ

ボストン日本人会
会長 堀内 實

今年1月に突然の前会長の辞任に伴い、2000年新年会までの期間の日本人会長、ボストン日本語学校運営委員長を務めることになりました。

ボストン日本人会も発会33年を経て、現在会員数約2千人、家族数約千三百を数える迄になりました。日本人会はそもそもが、グレートボストンを中心に、マサチューセツ州在住の日本人の文化、福祉、慈善その他の活動を行い、相互の友情を奨励する為に設けられました。

現在その中心的な責任ある事業として、日本語学校(補習校)の運営があります。セミナー、コンサートや婦人会も活躍しています。

1月の新年会の後は、日本語学校の卒業式、入学式、運動会、6月には由紀さおり、安田祥子のコンサートがありました。これには、ボストンコースグループがバックアップをつとめ好評で、私も一緒に歌いました。8月にはタガメのバスターも行って、皆満喫しました。10月にはフットボール大会をひかえています。日本ボストン会の皆様も、これらの行事へそれぞれの思い出をお持ちのことと思います。

日本ボストン会のイベントを見ると、お花見会、Mingの会、ゴルフ大会等、日本らしい行事で、どれも美味しい料理やレストランで締めくくられているところが羨ましい限りです。会の運営が財政的に苦しいことは私達と同じようです。

日本研修プログラムで日本に行く米国人教師のホストの受入れにおいては、日本ボストン会のお力添えに大変感謝しています。

多様な会員のニーズ、要求および時代の変革に合わせて会則、行事を見直し、次期新会長へ、運営しやすい日本人会を委ねたいと思います。

(追記)12月20日(日)午後、東京シーバホールにて、同志社グループ等によるソングの対決を歌います。

(私も歌います)。アメリカより指揮者(フィリップカネーの音楽監督)および3人のソリストを連れていきます。出来たら是非いらして下さい。お会いするのを楽しみにしています。 堀内實

日本/ニューイングランド交流の記録出版

8) 費用の項(1ページから続く.....)
(コピー代、表紙、目次、装丁等の費用は発行時に精算し、不足額があれば申受けます)

9) 執筆項目: 現在、以下の項目・担当者がほぼ決定しています。

- * 皇室とボストン
- * 日本の工業をリードしたMIT 人脈
- * ポーツマスで活躍したハーバード人脈
- * ボストンで活躍した研究者
- * 岡倉天心とボストン
- * 小沢征爾とボストンシンホニー
- * 日本に残るボストン関連遺跡
- * ピーボディミュージアム

なお、このほかにも担当者は決まっていますが、以下のような項目が考えられます。それ以外にも日本・ニューイングランドと歴史的に関わりが深いと思われる人物、事柄、場所などを思い付かれたら、是非ご寄稿をお願いします。

- * ジョン万次郎関係
- * 日本の近代化に貢献したニューイングランド出身の人々
- * パークレー音楽院、ニューイングランドコンサバトリーと日本人
- * ボストン美術館に貢献した日本人(天心以外)
- * ハーバード大学と日本(人)
- * ボストン大学と日本(人)
- * ボストンカレッジと日本(人)
- * アムハーストカレッジと日本(人)
- * ウェズリーカレッジと日本(人)
- * ラトクリフカレッジと日本(人)

10) 執筆申込先: 藤盛紀明 TEL 0474-67-6000

Fax 0474-69-4280

11) 原稿・フロッピー送付先:(執筆申込者に執筆要領とともに連絡します)

音楽の会

11月11日(水)午後6時半開演

於 網町三井クラブ

中野翔太ピアノの夕べ

主催 シーアンドシークラブ(代表佐々木涼子)

申込先 事務局 渡辺美恵子

北海道マサチューセッツ協会との交流報告

「ホワイトハウスの舞台裏」

アメリカの政治を動かしたマサチューセッツの人達
関場誓子

日本ボストン会はその発足以来、北海道マサチューセッツ協会との交流を維持しています。

同協会の要請に基づき、当会会員の聖心女子大学文学部教授関場誓子さんをご推薦申し上げたところ、本年3月17日、札幌フジヤサントホテルにおいて開催された平成9年度第2回マサチューセッツ・セミナーにおいて、「ホワイトハウスの舞台裏—アメリカの政治を動かしたマサチューセッツの人達」と題する講演が行われました。その要旨は次の通りです。

「日本とは異なる官僚組織」

アメリカの官僚組織は、政権が変わる度に大統領が政治的に任命する人達(ポリティカル・アポインティー)をトップに、現場で鍛えられたプロフェッショナルが従う形で構成されている。

アメリカの政策決定は大統領との距離によって左右される。同心円の中心に位置するのが大統領である。その外側に官僚組織、議会、世論、メディアと続くが、今のクリントン政権では、メディアが同心円のかかなり内側に入り込んでいるように思える。

そこで、大統領の直属機関である大統領府(ホワイトハウス)の役割が重要になっている。

通常、アメリカの官僚は大統領が指名した人を議会が承認して、初めて大統領が任命できることになっている。ところが、ホワイトハウスとNSC(国家安全保障会議)のように、大統領の私的な機関であるということで、議会の承認を得なくても、大統領の任命だけで就任出来るポストがある。

議会の承認を得なくても、大統領への文書の流れ、大統領のスケジュール、そして大統領と報道機関との接触を管理出来ることによって、絶大な権力を持っているのがホワイトハウスの一握りの人々である。

ホワイトハウスの人たちが権力を持ち始めたのは、ケネディ大統領の時代に、ベスト・アンド・ブライテスト(選り抜きの切れ者)と呼ばれる人々がホワイト・ハウス入りしてからのことだが、この人達のほとんどがマサチューセッツ出身の人々であった。

この理由としては、マサチューセッツに学者のア

カデミック・コミュニティが非常に発達していたことがあげられる。

「ベスト・アンド・ブライテスト」の役割

それでは、実際にどのようなものであったであろうか。

ハルバースタムの書いた「ベスト・アンド・ブライテスト」ではその功罪を論じている。

ケネディ大統領の就任演説の中に「国家が諸君のために何をしてくれるかではなく、諸君が国家の為に何をなするか問いたまえ」という有名な一節があり、そこにはエリートであるが故の義務を果たさねばならないという使命感がある。また、同じ演説の中に自由の存立と成功を守るため、あらゆる困難に立ち向かうであろうとの趣旨のことが述べられている。この二つの考えの反映された結果がベトナム戦争だったのではないか。

この大統領の演説を作り、政策を支えた人々がベスト・アンド・ブライテストであった。ケネディは彼らを国務省以外の国防省、ホワイトハウス・NSCにちりばめていった。

例えば、ウィリアム・バンディ、マクジョージ・バンディ達によってホワイトハウス、NSC補佐官の権限が拡大された。非常な自信と学問的な裏付けを持ち、しかしながら実践を知らない人達によって重大な決定が次々となされた。

大統領の政策、意向、理念を政治に反映させることが出来たのが功の部分とすれば、罪の部分は、ベトナム戦争への流れをつくってしまったことである。

ニクソン大統領の時代には、ハーバード出身のキッシンジャーがNSC補佐官として、ベトナム戦争の終結と、中ソのデタントによる70年代前半の緊張緩和の時代を生み出した。

カーター政権の時には、NSC補佐官と国務長官の対立で矛盾した外交が行われた。レーガン政権ではハーバードのパイプス教授やマーシー研究員の影響で、対ソ政策が形成されていった。その他、ハーバード・コミュニティには、外からもアドバイザーという形で影響力を行使できる人々が多かった。

クリントン政権には、ハーバードからエズラ・ボーゲル、ジョゼフ・ナイが加わった。お二人がハーバードに戻った後では、同じハーバードのカート・キャンベル助教授が国防次官補として、中長期的な視野に立った対日政策に関与している。マサチューセッツ州と北海道の関係で興味深い一面である。

「いこいの場」について

ボストン日本人会婦人部

「いこいの場」責任者 吉野静子

「いこいの場」は7年前に日本人会に婦人部が設立して以来続けているボランティア活動の1つで、長期在米の日本人女性のために日本語で語り合える「楽しい集いの場」を提供するものです。

毎月第1土曜日に催される会の出席者は35人前後ですが、ほとんどの方が在米30年以上という女性の方々です。月一度の日本語と日本食による集いが今では生活の張りになり、また一部となっているとのことです。

原則として7、8月は夏休みですが、今年度は皆様の強い要望もあって、7月はニューハンプシャーにある「バラ園」へ、8月の「ボストンハーバークルーズ」はボストン湾の中にあるジョージ島へ上陸して、南北戦争時の俘虜収容所跡を見学、「幕の内弁当」の昼食、ボストンの素晴らしい景色を眺めながらの休息を楽しみました。

11月には2週間の予定で「日本の温泉と里帰りの旅」を計画、準備を進めています。45年振りで、いちばん日本へ帰りたい方々の癌が足に転移して歩行困難となり、やむなく帰国を断念しました。他にも病のため、この旅行に参加出来ない方々がいます。「いこいの場」のメンバーの高齢化に伴いお見舞いが大きな課題となってきました。

8月1日発行の「ボストン日本人会会報」に掲載された「いこいの場」の記事(別掲載)から、私たちボランティア活動の一端をご理解いただけましたら幸いです。

ボストン日本人会会報(98年8月1日号転載)

「いこいの場」

去る5月19日午後、「いこいの場」のメンバーであった蜂須ゆきさんが長い間の闘病の後、安らかに73才で永眠なさいました。一人住まいであったゆきさんの病が重くなされた昨年9月からは婦人部、修道女、学生などで10数名のチームを作り、毎日日本食を持っての訪問が始まりました。

ゆきさんは病気になってからは特に日本食が恋しいと、日替わりの家庭料理を喜んで食べて下さいましたが、今年の1月末からはそれも出来なくなってしまいました。生きるすべてを機械に委ね、声帯も失ってしまいました。お見舞いに訪ねられるお兄様一家との23年振りの再会をととても楽しみにしておりましたが、力つきて再会前に亡くなられました。

お兄様一家は土日を含む3泊4日と短い滞在でしたが、ゆきさんとの対面、お別れ会、火葬、総領事館での手続きなど滞りなく済まされました。ゆきさんはお兄様一家と懐かしい日本に帰られました。

長い間ゆきさんをお世話くださいましたボランティアの方々にお兄様の蜂須光男様から厚い感謝のお言葉と共に、今後のボランティア活動のためにと10万円のご寄付をいただきました。ここに報告させていただきます。

ゆきさんの辞世の句

病み果ててしのぶは里の落ち葉かな

ゆきさんを思って

永病みの友に見せたし花吹雪

ゆきさんのご冥福を心よりお祈りいたします。

日本ボストン会行事参加アンケート

当会では数多くのイベントが年間を通じて企画されています。会員の相互交流の場は総会・懇親会以上にこれらのイベントへの家族ぐるみでの参加が中心となっています。年間の予定をお知らせしますので、総会への出欠の返信葉書(同封)にご興味の有無を○を囲んでお知らせ下さい。

歴史の会(春・秋) 美術の会(随時)、ハイキングの会(随時)、お花見の会(4月初旬)、ゴルフ会(春・秋)、音楽の会、幹事会(随時)。

日本ボストン会懇親会出席のお願い

ボストン、そしてニューイングランドは、会員にとり思い出の深い地域です。当会はこの思い入れの深い方々のフォーラムを目指し発足しました。

色々のお考えをお持ちの方々のお考えが、会報で知り合うことで、形になることを期待しております。また、ニューイングランド在住の日本人の活動を支援することも、大事な活動であると考えます。今年の懇親会には「いこいの場」の里帰りグループの皆様をお招きします。ご参加をお待ちします。

お花見の会(4月6日)報告

花も団子も千鳥が淵

関 尚子

春雨に なおもゆかしや 桜花

ボストン会恒例行事となった千鳥が淵お花見会への初参加でした。

かって家が近くにあったこともあり、毎年桜の頃には靖国神社から千鳥が淵にかけて散策していましたが、今年は雨模様で期待感は半減。ところが参加者の普段からの行状が良かったせいか定刻には雨もあがり、むしろ雑踏がない故に余裕をもって楽しく夜桜を堪能できました。

幹事さんの粋な計らいでビールやお酒が用意されていて、缶酒、しかも燗酒をすすりながら満開の桜のキャノピーの下を会のメンバーと共に逍遙。女だてらに酒缶片手にぶらついている姿を親が見たら何と言われることか。

桜はやはり日本のもの、古来からの日本の良さを象徴しているように思われます。欧米人がバラや草花を愛するのとはまったく違った意識の世界で感応しているのでしょうか。外国暮らしが長かっただけに、桜への心情が格別に湧き上がってくるようです。

ライトに浮かび上がった圧巻の桜花もさることながら、その後に用意された個性豊かなレストラン(すてき屋らいむらいと)での宴もまた素晴らしいもの。ヌーベル・クイジーン風のバラエティ豊かな料理とワインは、十分に味覚のレベルを向上させるものでした。花も団子もバランスよく堪能させていただいたあの夕べ、主催者の藤盛さんをはじめ、アレンジいただいた幹事さんたちに感謝感激です。

参加者: (敬称略)

近藤宣之・百合子、篠崎史郎、関直彦・尚子、當間秀雄、高木政晃・令子、土居陽夫・嘉子、藤盛紀明・富美子、俣野善彦・真由美、水野賀弥乃・友人、山田敬蔵。(17人)

歴史を飲もう会

8月29日に予定した川崎・生麦の史跡とビール工場見学の会は、当日、台風の影響が懸念され延期しました。次回は11月8日(日)開催予定です。

ゴルフ懇親会報告

次回ゴルフ会10月29日に

於寄居カントリークラブ

近藤 宣之

第6回日本ボストン会ゴルフ懇親会は、平成10年6月5日に、埼玉県寄居カントリークラブで開催されました。

今回は日程の都合で参加者が9人と通常より少なかったのですが、素晴らしいコースコンディションに恵まれ、全員楽しくプレーできました。前回優勝の西川さんが見事2連勝しました。

これまで適用してきた新ペリヤ方式のハンディキャップ(HDCP)だと、同じ人が優勝する可能性が高いため(過去2回=2人で4回優勝)、これを機に、各自のHDCP方式とすることにしました。今後は、1位になるとHDCPを3割、2位2割、3位1割カットし、アンダーパーは差し引くことにします。この方式により誰もが優勝する可能性があります。

第1回から6回までのゴルフ懇親会の実績の平均から、今回の参加者の新HDCPを次の通り決めました。尚、今回のグロスの成績は()です。

西川: 18(95)、近藤: 18(93)、土居: 26(108)、高木: 28(101)、藤盛: 28(102)、磯崎: 30(110)、當間(き) 33(111)、藤盛(富) 40(128)、土居(嘉) 40(142)。

次回参加される方は以上の仲間のHDCPを参考にしてください。

次回、第7回のゴルフ親睦会は、平成10年10月29日(木)に同じ寄居カントリークラブで開催します。今回は5組20名を予定しています。参加希望者は早めに、幹事宛にご連絡下さい。

詳しい資料をお送りします。初参加の方も歓迎します。コンペでは無く、楽しくプレーし、後の歓談を大切にする懇親会です。取りきりの優勝カップや賞品もあります。初心者の方もお誘いあわせご参加ください。

幹事 西川文夫
近藤宣之

美術の会報告

光春とEl Greco(1541-1614)
寄せ木造と肖像画

酒井典子

ボストン美術館に展示される寄せ木造「八幡」(光春1328)、そしてEl Grecoによって描かれた「Fray Hortensio Paravicino」(1609)は国、時代は違っているも心理的描写において共通点を見出される。

光春は神としての「八幡」ではなく、非常にリアルに人間的暖かさを持つ「八幡」を表現している。木彫りには色は塗られていない。細かく彫られた波打つ袈裟の襷が唯一の装飾と言えましょう。

「八幡」は正面を向き、足を組み瞑想にふけっている。顔は丸く、半分目を閉じている。細かく彫られた長い大きな耳、アーチ型の眉、丸い鼻。優しさと強い意志に満ちた口許。これらは仏陀からの発想である。微妙に彫られた「八幡」の袈裟は光に照らされ、明暗がはっきり表れている。顔、あご、そして手の辺りにも光が当たり、ところどころ柔らかな陰ができ、なお一層「八幡」の表情を生き生きさせている。

El Grecoによって描かれた「Paravicino」はわずか21歳の時、スペインSalamancaの教授に任命されたドミニカン教会の牧師であり、詩人でもあった。

El Grecoの描く牧師は神秘的ムードからはおよそ離れていて、とても人間的である。意志の強さを示す口許、そして長く誇張された耳は、両モデルに見られる。光春、El Greco、両者のモデルは作者自身のイメージから描かれて、又は彫られている。幸せの人生の旅路をいつまでも見守ってくれている様な穏やかな眼差しが二人のモデルから感じられる。

El Greco描く「Paravicino」の大きな本を持つ手はしなやかで美しい。あごのひげが少し伸びた若い牧師の顔はやや三角で、大きな瞳は優し気である。白と黒の聖職者の衣装は何度も色を重ねたバックの色に深く馴染んでいる。

光春とEl Greco二人の芸術家はモデルの手の動きを微妙に表現している。光が両者、「八幡」と「Paravicino」の顔、手、頬、額、そして鼻の線に当たり、光春は彫刻に、El Grecoはキャンパスに独自の



Fray Hortensio Paravicino(1609)

方法で命を吹き込んだ。光春は高僧に、El Grecoは聖職者に視覚に訴えるより、むしろ心理的描写を試みた。それは一生懸命は必ず相手に伝わると教示する高僧、聖職者の姿である。

幾度となく足を運んだボストン ミュウジウム。懐かしい名画の数々が又の再会を喜んでいるかの様に、私を迎えてくれた。遠いはるか昔に描かれた絵が、今描きおえたのではないのかと思うほど、つややかに色も鮮やかにいつもながら心に響いてきた。

この夏訪れた時は、これと言った特別な展覧会は見られなかったが、各展示室に置かれた椅子に座り、しばし頭をからっぽにして見慣れた名画を又鑑賞できる時を持てたことは、何とも言いがたいハッピーな気分にさせてくれた。何年か前にEl Greco、そして光春の作品の前に座り、想いをめぐらした頃を想い出し、又感動を新たにしました。(Aug. 29)

ホームステイ先募集!

11月7日(土)昼/8日(日)昼迄

メドフォード男女教師2人、カークリン 男性教師1人

例年どおり3人の先生方が来日されます。一週間の滞在の内の1泊ですが、皆様の家庭をみせて戴けませんか。今年のホームステイ先を募集します。受入れ可能な方は、日本ボストン会事務局までご連絡願います。

ハイキングの会報告

静岡由比を歩く (平成10年5月16日)

篠崎和子

ご案内を頂いて、歩くこと、食べることの大好き人間の私は、この日を楽しみに初参加させて戴きました。当日は晴れ男と晴れ女がいらしたせいもあるのでしょうか絶好のハイキング日和で、JR東海道線興津駅に六人が集合し、足取りも軽く心地よい風に吹かれ、海・山を眺めながら薩埵峠頂上まで登りました。

頂上近くの展望台は安藤広重の浮世絵「東海道五十三次」の内「由比の宿」の作画場所と言うことですが、左手に駿河湾、前方に霊峰富士の聳える現在の風景も正しく浮世絵通りで、そこに立った時は一瞬江戸時代にタイムスリップしたような錯覚に捕らわれました。

由比の町に下りて街道筋にある「広重美術館」であらためて東海道五十三次の諸作品を鑑賞した後に昼食。旅の楽しみの一つはその土地の食にあるのではないのでしょうか。

今回の狙いは旬の桜海老です。釜上げの桜海老は、私自身この季節にはかき揚げにし、春の天ぷらの一品に必ず加えておりますが、お刺し身で戴くのはこの歳にして初めてのことでした。

矢張りその土地でその時季でなければ味わえないものがあるようです。海老づくしコースを大変美味しく頂きました。男性の方のお酒も大分進んでいたようです。諸手配をして戴いた土居ご夫妻に心より感謝。

参加者：近藤百合子、篠崎史郎・和子、
土居陽夫・嘉子、當間きよみ。(6人)



幹事会記録

*1998年7月2日(木)出席者11人

レディース会報告

ボストン日本人会婦人部がお世話している「いこいの場」の来日スケジュールによれば、東京11月13-18日滞在予定。総会(11月13日)にご招待することで先方と調整を進めることにした。

(別項参照)

歴史の会報告

川崎・生麦(幕末の歴史的遺跡とビール工場)見学予定。8月29日又は9月12日。

ハイキングの会(5月26日)報告

静岡興津/薩埵峠/由比(別項参照)

千鳥が淵お花見会報告(4月6日)(別項参照)

ゴルフの会報告(6月5日)(別項参照)

ニュイグラブ/日本交流の歴史出版企画提案

第1段階:原稿出稿者がコピー費用負担し発行。

第2段階:執筆者自己負担も考えて出版社交渉。

(別項参照)

友好団体との交流(意見交換)

総会への案内・歴史出版企画への執筆依頼。

(ボストン日本人会、ジャパンソサエティ、北海道マサチューセッツ協会、名古屋ボストン美術館、京都ボストン交流の会)

ボストンガイドブック販売状況(完売報告)

会報発行(原稿8月末締切・9月下旬発行予定)

1998年度総会開催案・意見交換

*1998年9月8日(火)出席者13人

歴史の会(8/29の集まりは台風のために中止)

次回は11/8、生麦史跡・ビール工場予定)

美術の会(99年春、名古屋イトヨ美術館見学予定)

レディース会

総会・懇親会に「いこいの場」里帰りグループ招待を報告。

関係友好団体との交流の件報告

北海道MA協会、京都ボストンの交流の会、名古屋ボストン美術館。

会報制作状況報告(10月初旬発行予定)

歴史出版計画案審議、編集委員(藤崎、藤盛、篠崎、関)選任。

総会・懇親会開催準備審議

新会員入会状況報告(3月/8月なし)

幹事会(次回12月12日予定)